

知床半島ヒグマ保護管理方針の策定について

1. 策定の目的

ヒグマが高密度に生息する知床半島において、ヒグマ個体群を健全に保全するとともに、利用者、地域住民との軋轢の解消することを目的としている。基本的な保護管理方針を検討することを目的に、平成 22 年度に設置された。検討会議の構成については、別紙のとおり。

2. 策定の経緯

平成 22 年度に知床世界自然遺産地域科学委員会の戦略的な作業グループとして、ヒグマ保護管理方針検討会議が設置され、専門家と関係行政機関により、主に斜里町、羅臼町、知床財団、北海道及び環境省による既存のヒグマ対策について整理するとともに、新たな視点を取り入れた保護管理方針が検討され、【ヒグマ保護管理方針（案）】（資料 4-2）が取りまとめられた。

3. ヒグマ保護管理方針（案）の特徴

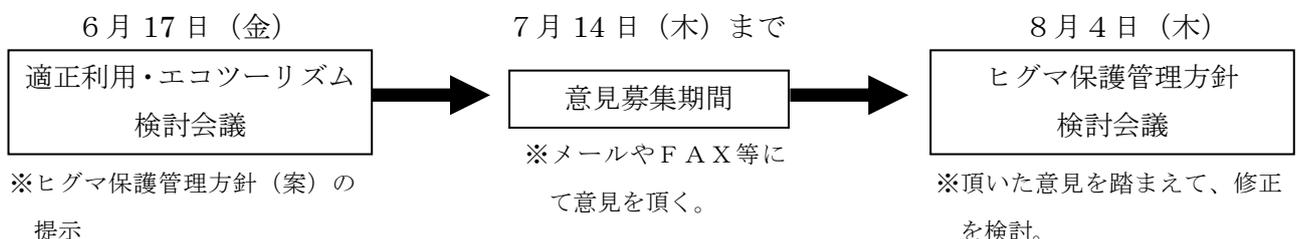
取りまとめられたヒグマ保護管理方針（案）の特徴は、以下のとおりである。

- 知床世界自然遺産地域に生息するヒグマの行動圏として、遺産地域外を含む斜里町、羅臼町、標津町を保護管理方針の対象地域としている。
- 対象地域のヒグマ個体群を現行水準で維持することを目的とし、人の活動に実害をもたらすなどの問題個体の発生原因の解消などを通じて、問題個体の減少をめざすこととしている。
- 対象地域を利用者や経済活動の多寡、住宅の有無などにに基づきゾーニングするとともに、出没したヒグマの有害性を示す行動段階を規定し、それらに基づき適切な保護管理対策を実施することとしている。
- 関係行政機関の役割を明記し、連携により適切な保護管理を進めることとしている。

4. 今後の予定

下記スケジュールのとおり、【ヒグマ保護管理方針（案）】について適正利用・エコツーリズム検討会議に意見照会を実施し、第 1 回ヒグマ保護管理方針検討会議において、適正利用・エコツーリズム検討会議から頂いた意見を踏まえて本方針（案）の修正を検討する。

なお本年度は、2 回の会議開催を予定しており、本方針（案）について地域住民説明会を実施するとともに、そこで得られた意見も踏まえた修正を検討し、ヒグマ保護管理方針の確定を目指す。



4. 連絡先

意見募集期間（～7月14日（木））の連絡先は、下記のとおりとする。
メールやFAX等にて、伝えやすいところへ意見の提出をお願いします。

- 釧路自然環境事務所

〒085-8639 釧路市幸町10-3 釧路合同庁舎4階

TEL : 0154-32-7500

FAX : 0154-32-**7575**

担当 : 加藤 倫之 noriyuki_kato@env.go.jp

- ウトロ自然保護官事務所

〒099-4354 斜里郡斜里町ウトロ西186-10 知床世界自然遺産センター内

TEL : 0152-24-2297

FAX : 0152-24-**3646**

担当 : 野川 裕史 hiroshi_nogawa@env.go.jp

- 羅臼自然保護官事務所

〒086-1822 目梨郡羅臼町湯の沢 羅臼ビジターセンター内

TEL : 0153-87-2402

FAX : 0153-87-**2468**

担当 : 三宅 悠介 yusuke_miyake@env.go.jp

別紙

ヒグマ保護管理方針検討会議は、知床世界自然遺産地域科学委員会の戦略的な作業グループとして、科学委員会及びWG等に所属する以下の委員と関係行政機関により構成される。事務局は環境省釧路自然環境事務所が務める。なお、オブザーバーとして標津町及び坪田 敏男（北海道大学 教授）が検討会議に参加している。

○科学委員会

梶 光一 東京農工大学 教授

敷田 麻実 北海道大学 教授

松田 裕之 横浜国立大学 教授

○エゾシカ・陸上生態系WG

間野 勉 北海道立総合研究機構環境科学研究センター 研究主幹

○適正利用・エコツーリズムWG

愛甲 哲也 北海道大学 准教授

庄子 康 北海道大学 准教授

○河川工作物AP

小宮山 英重 野生鮭研究所 所長

○関係行政機関

北海道森林管理局

北海道

○地元自治体

斜里町

羅臼町